「今月の主な紙面」

2.　看護委員会研修、ドクターナース介護W、わんこにゃんこ
3.　全国ジャンボリー、模擬面接会、お気に入り、まんが
4.　相談室、介護無料電話相談、読者のひろば、パズル

愛知民医連

愛知県民主医療機関連合会
〒456－0006 名古屋市熱田区沢下町９番３号
☎ 052－883－6997 FAX 052－889－2112
発行責任者　武田　修三
URL：http：//www.aichiminiren.jp/
E-mail：aichiminiren@aichiminiren.jp
第498号

愛知民医連 第55回 学術運動 交流集会

被爆体験を聞き、核兵器のない世界をめざす

「草の根平和運動」が今こそ重要

２０２５年11月23日、名古屋駅近くのＴＫＰガーデンシティにて第55回愛知民医連学術運動交流集会が開かれました。

午前は講演も含めた全体会、午後は分科会の形式は例年と同じでした。演題数は95本（昨年73、２０１９年86）と増加、内訳は医師６、看護師／助産師44、薬剤師３、リハビリ７、介護17、事務／ＭＳＷ８、歯科３、栄養科１、放射線科２、その他４でした。看護師、介護関係の発表が目立ちましたが、医師の発表が去年の２から６に増加しました。

全体会の参加者は４２１人（昨年は４３１人）。内訳はみなと１５９、南５、北51、名南54、尾張１１５、ファルマ17、はみんぐ10、他10でした。分科会のみの参加者も多く、昼食の時間が最も人が集まりました。

金本さん、大村さんのお話に聞き入りました

県連医活委員長
安藤　達志
協立総合病院・医師

生き残ったことへの罪の意識を抱え続け…あまりに悲惨な原爆被害

午前中の全体会は、昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の方々に「ノーベル平和賞受賞式に参加被爆体験を伝え核兵器のない世界を目指す」と題して講演していただきました。

日本被団協理事の金本弘さんは自らの体験を踏まえて講演されました。

核兵器の脅威は、①熱線、②爆風、③放射能がある。熱線について言うと、爆発時の温度は空中で５０００度、地上は３０００度だった。葬儀場では焼却炉は１２００度で骨が残るように焼くが、３０００度だと、骨も残らない。

広島では人口35万人のうち、４か月以内に14万人がなくなったが即死したのは半数以下。その後、毎日数百人ずつ亡くなっていった。それを見て、生き残った人の多くが「死んでいく人を助けることもできず自分だけ生き残った」という罪の意識を持ち続けた。なかなか被爆体験を語る事が出来ず、多くの方が40～50年たってやっと口を開くようになったとのことです。

被団協・金本さん

金本さんが広島で被爆したのは、満９か月の頃なので人から聞いた記憶しかなく、ご自身が退職されたあと、10年ほど前から本格的に被爆を伝える運動を始めたとのことでした。

被団協・大村さん

核兵器をなくす使命を託されたノーベル賞受賞

続いて、日本被団協被ばく二世委員会委員長・大村義則さんから講演がありました。

ノーベルは遺産のうち５分の１を「常備軍の廃止に寄与、平和の会議の確立に寄与したところに残す」と定めた。それが元となりノーベル平和賞ができた。

国連で核兵器禁止条約が決議され、現在１２７か国が賛成、44か国が反対している。反対しているのは核保有９か国とＮＡＴＯ加盟国、それ以外は日本、韓国、オーストラリアの３か国だけである。

しかし日本でもアンケートでは73％の国民が核兵器禁止条約への参加に賛成し、すでに40％を超える自治体が条約への参加・批准を求める意見書を決議している、と紹介されました。大村さんは午後も講演会があると食事もとらず出かけられました。

憲法を学び、考え、話し合い、共感でつながり生き延びていこう

午後の第８分科会（社保・平和）では、弁護士の田巻紘子さんが極右勢力、主に参政党の政策について講演されました。

日本人ファーストとして外国人排斥（しかし在日米軍は含まれず）、女性差別、憲法９条改悪と緊急事態条項の提案、これらの主張は国際的孤立を招いて太平洋戦争へ突入した過去の状況によく似ている。それを防ぐ方法は憲法に書かれている。憲法を学び、考え、話しあい、３％の共感でつながり、生き延びていこうと結ばれました。

第８分科会・田巻弁護士の講演

続いて演題発表に進み、広島、長崎で開催された原水禁世界大会、辺野古支援・連帯行動、生活保護、無料低額診療、社保平和気候委員会、緑区に９条の碑をつくる、などの発表がありました。

第１～第７の各分科会でもそれぞれ50人から80人の参加があり、活発な討論がされました。

第６分科会・リハビリ・地域包括ケア

第１分科会・臨床報告 医療安全

座長賞はみなとが４、北が２、はみんぐが１とそれぞれ受賞し、第１分科会では学生が受賞しました。

有意義な集会を来年も！

今回は会場がいつもと違い迷った方もおられたようで心配しましたが、多くの方が参加されました。

感想文ではいつも以上に全体会の感想が多く寄せられ、「被爆体験者の話を直接聞き、よくわかり感動した」という意見が目立ちました。いつも言うように、全法人から現地に集まるこのような大規模の集会はこれしかありません。この有意義な集会を発展させていきましょう。来年もよろしくお願いします。

法人事業所だより

みなと

☆11月１日レインボーセンターで「介護・看護活動発表会」を開催。１４９人参加で「選ばれるケア」をテーマにポスターセッション、「がん患者の多職種連携」をテーマにパネルディスカッションがされました。

☆11月８日、みなと診療所65周年企画「みなと健康まつり」を開催しました。

南

☆11月２日に南生協病院で「秋のふれあい健康まつり」を、昨年にひきつづき南大高町内会と共催で開催しました。今年は協賛企業団体が14あり、地元に密着したお祭りが進んだと感じました。参加者は８００人以上。ほかの各地域でも多世代多文化が混ざり合ったお祭りが開催されました。

北

☆11月28日「医療機関の維持存続を求める請願署名」の学習会を行い44名の参加でした。「とても分かりやすく医療機関の危機が理解できた」等の声がよせられました。学習会後に署名活動をおこない３８０２筆まで到達しました。

☆11月30日北病院健康まつりに５００名参加です。

名南

☆11月８日に第66回法人臨時社員総会、評議員会を開催。評議員会では上半期のまとめと下半期の重点課題、共同組織拡大強化月間の中間到達について報告、分散会討論においてご意見をいただきました。

☆11月16日名南健康まつりを開催し３００人以上がご来場され大盛況でした。

尾張

☆11月８日に行われたドクター・ナース・介護ウェーブに代表６名が参加し、医療・介護制度充実の必要性を訴えました。

☆中期職員研修で、職員10名と友の会員７名が、グループに分かれて地域を訪問。地域に根差した医療・介護活動を考える機会となりました。

ファルマネット

☆11月は「お祭り月間」。毎週いずれかの医科事業所でお祭りがあり、職員が交代で参加しました。主な企画は「こども薬剤師体験」。子ども用の白衣を用意し、薬剤師になりきって調剤体験をしてもらいました。親御さんたちは、白衣姿の子どもたちの姿を嬉しそうに写真に収めていました。

はみんぐ

☆11月８日「第４回青空健口ひろば」は約90人が参加。オーラルフレイル予防のトレーニング、太極拳やストレッチ体操の他、今年は南区北部いきいき支援センターの職員さんによる「認知症学習会」を企画。

☆県連学運交・第８分科会にて「社保平和気候委員会１年の活動について」に座長賞をいただきました。

災害時支援を「受け入れる側」としての備えを学ぶ
～令和6年能登半島地震から
県連看護委員会研修

県連看護委員会は、11月1日（土）午後、「『受け入れる側』として私たちにできること」をテーマに学習会を開催しました。石川民医連より3名の方をご招待し、能登半島地震での体験談や受援体制の立ち上げ・連携・支援の実際について報告頂きました。

医師を始め、事務・介護・リハビリ・ケアマネなど他職種を含めた5法人・52名の参加がありました。

「災害対応と取り組み」
石川民医連
事務局長　寺山公平さん

寺山さん

災害時、県連内の複数ある事業所から情報を収集してとりまとめ支援を調整する、県連の地震対策本部の活動について報告を頂きました。

これまで培った災害支援の経験や知識を活かし、発災直後からすぐに支援ができる民医連組織の素晴らしさを実感できました。その中でも、自分自身も被災者である職員達のメンタルケアや生活再建など、長期的な支援が必要となることを知ることができました。

「後方支援としての取り組み」城北病院
看護部長　藤牧和恵さん

藤牧さん

全国から看護支援を受け入れ、周囲の協力を得て看護を継続することを学び、実践することができたと振り返りをされていました。

被災地に支援が入れない・支援拠点が作れないことから、石川県内での1・5次避難となり、城北病院も被災地からの受け入れを行いパンク状態となったそうです。被害は少ないと言っても城北病院の職員や職員の親族も被災者。「被害の大きい能登よりは……」と職員が一丸となり頑張る日々の中、全日本の看護委員から「助けてって言っていいんだよ」と声をかけてもらい、張り詰めていた気持ちが楽になったとのお話が印象的でした。

支援の受け入れは、職員にとっても自分自身が被災者であることもあり、支援を受ける側でもあり、支援を受けていいんだということに気づく機会となり、支援者へ感謝を伝えたいと始まった水引アクセサリー作成は、仲間と思いを伝え合える時間にもなっていたそうです。

全日本からの支援は、支援受け入れの準備から支援の心構えなど、一つひとつ一緒に作成から確認まで丁寧に協力頂けるようで安心できました。

「被災事業所からの報告」
輪島診療所
主任ケアマネ・社会福祉士
三谷美貴子さん

三谷さんの問いかけ「今、大規模災害が発生したらどうしますか。この手荷物しか無い状態。家族との連絡は……」。会場が静まりかえっていました。

三谷さん

三谷さんのご自宅は、輪島の朝市がある地域でした。震災直後、家族を先に避難所へ送り出し、ご両親の避難を手伝いに自宅近くに戻られたそうです。倒壊した家屋から声が聞こえるけれど、津波から避難するために自分や家族を優先して避難所へ。「避難所から自宅周辺が火に包まれていく様子を眺めることしかできなかった」「まずは自分の命を守ってください。何かするにも命がなければ」と、震災で命を奪われた・あの時助けることができなかった方達への思いを胸に秘め、淡々と話をしてくださいました。

質問も出されてしっかりと学びました

避難所での生活も想像以上に厳しい状態であったことを教えて頂きました。避難所にたどり着いても設営する人が来ないため、建物にも入れない。災害備蓄があるかもしれないが、どこに何があるかわかる人がいない。1人コップ1杯の水が配布されたのは、翌日だったそうです。その後も食料などの避難物資は届くようになっても数が足りず、取り合い奪い合い。TVで見るガザの光景が目の前で起こっていた。ここは本当に日本なのかと辛く悲しい時間を過ごされたと。TVで流れてくる震災報道では、「助け合って乗り越えました」ときれいな話しか見えないのだなと痛感しました。

この様な状況の中でも1月4日には、地域の人達のためにと輪島診療所を再開。支援を受けながら地域に足を運び、大切な故郷を守るための奮闘を伺うこともできました。残念なことに、介護サービスを利用したくてもサービス事業所が再開できない、仕事する場所がないために介護スタッフが移住するなど、住み慣れた地域で生活するシステムが減少しているそうです。そのため5つあった居宅介護支援事業所も2つに数を減らす事となり、地域の復興には時間がかかりそうです。

「受援体制」とは

災害などの非常時に、外部からの支援（人的・物的資源）を円滑に受け入れるための準備や仕組みのことです。事前に応援を必要とする業務や、受け入れの手順などを定めておくことで、災害発生後の混乱した状況下でも迅速かつ効果的に支援を活用し、早期復旧を目指します。

全国各地で大規模災害が相次ぐ中、被災医療機関が自らの機能維持だけでなく、外部からの支援を円滑に受け入れる「受援体制」の整備が不可欠となっています。

今回の学習会が、受援体制や災害対策を考えるきっかけになればと思います。

名南ふれあい病院・
介護医療院
名南ふれあい病院・
名南介護老人保健施設
かたらいの里
総看護課長　吉田真美

街の人たちも手を振り返して応援してくれました
秋のドクターナース介護ウェーブ

医師・看護師・介護職員の大幅増員を訴える、秋のドクターナース介護ウェーブが、11月8日、名古屋市中区の若宮広場で行われました。集会は愛知民医連、医労連、自治労連が主催し、栄を元気よくパレードしたあと、若宮広場で署名宣伝を行いました。ウェーブには45名が参加、民医連からは21名の参加でした。

パレード前の集会では県医労連・浜島さんが「人手不足の医療・介護は低賃金改善が必要だが私たちの運動にかかっている。明るく楽しくアピールしよう」とあいさつ。続いて3団体それぞれから代表がスピーチ。

民医連からは生協わかばの里・永井さんが「介護を必要とする人が増えていくなか、介護職が圧倒的に足りない。労働環境改善・賃金改善のため声をあげていこう」と訴えました。自治労連・斉藤さんからは、公立病院が担う公的な役割を後退させてはならないとの訴え、全医労・勝田さんからは患者さんの療養生活の安心を支えて看護してきたが過酷な労働環境。改善のために立ち上がろうとの訴えがありました。

リズムに合わせて軽快なテンポで賃金改善や大幅増員を訴えて矢場町から栄の繁華街をパレードすると、道行く人たちから手を振って応援してくれるシーンがあちこちで見られました。

若宮広場に戻っての署名行動では、名南病院・看護師の前川さん、名南ふれあい病院・介護福祉士の馬場さん、老健かたらいの里・介護福祉士の武藤さん、生協わかばの里・介護福祉士の堀田さんたちもマイクをにぎり、道行く人たちに署名への協力が訴えられました。

家族だけに心を開いてくれて抱っこが大好き♪

うちのわんこ にゃんこ

我が家から車で3分の実家には、特別な思い入れのある愛犬がいます。

「アンディ」というミックス犬の13歳の男の子です。歯科医師になりたてで現実の厳しさに揉まれていた頃に出会い、どれだけ癒されてきたかわかりません。人見知りで家族だけに心を開き、抱っこが大好きです。今では、私が子供達を連れて遊びにいくとうるさそうな顔をしつつも、おじいちゃんの様にやさしく見守ってくれています。まだまだ元気でいてください！

はみんぐ歯科
歯科医師
加藤由美子

命の平等を貫き、どんなに困難でも患者・利用者に寄り添い共に切り開く

――民医連の活動を知り、全国の仲間とつながった

第41回全国青年ジャンボリーin兵庫

第41回全国青年ジャンボリーin兵庫が11月27日～29日、兵庫県神戸市の神戸ポートピアホテルで開催されました。コロナの影響により対面で行うのは6年ぶりでした。

「今何しとう？会って話そうや」～6年ぶりの再会

県を越えて出会い　仲間と笑顔で埋め尽くそう～をテーマに、全国から459人が参加。愛知からは名南会6名、尾張健友会4名が参加することができました。

阪神淡路大震災での民医連の災害支援を学ぶ

1日目、阪神淡路大震災での民医連の災害支援に参加された方の話を聞き、次に災害が起きた時に民医連の職員としてどのような行動をとるかを話し合い、夕食交流会では班員と自己紹介ゲームやクイズ企画に参加して交流を深めました。

2日目、神戸市街のフィールドワークを行いました。携帯電話でスタンプラリーをしながら震災跡地や神戸大空襲の戦跡地を回り、実際の映像や震災当時の資料を見ました。

3日目には、下林孝好先生（奈良民医連・健生会土庫病院　全日本民医連MMAT委員会）の講評を受け、班で寄せ書きを書き合いました。

民医連の活動を知り、全国の仲間とつながる

経験年数の若い職員たちが、被災者のために何が必要で自分には何ができるか、自分にはできないけど何が必要か、職種を越えて考えることができました。「困ったところに民医連あり」が伝わり、民医連を知らずに入職した青年たちが民医連の良さを知る機会となったと思います。

【参加者の感想】（一部）

千秋病院　介護福祉士　春日井　雪花

初めて全国JBに参加させて頂きました。被災された方の講演や実際の映像、自分の目で見た震災や戦争の跡を目の当たりにし、今までは他人事だと思っていたものを身近に感じました。また、民医連の様々な活動を知り、より一層民医連の職員としての自覚を持つことが出来たと思います。馴染めるか不安であった班行動では、3日間様々な企画を通じて班員と交流を深めることが出来、最高の仲間に出会う事が出来ました。

阪神淡路大震災の状況（当時）

千秋病院　事務　峯松　佳世

兵庫県での全国ジャンボリーに参加し、震災当時の支援の姿や、これからの世代が担う災害対策について深く考えさせられました。跡地のフィールドワークや防災体験では、歴史や災害が「遠い話」ではなく、自分の今の暮らしに直結するものだと実感し、防災への向き合い方が大きく変わりました。

名南ふれあい病院　理学療法士　双津　佑都

今回は阪神・淡路大震災について学び、自分の住む地域のハザードマップを見返す良い機会となり、災害意識が高まりました。JBのグループは全員初対面でしたが、一緒に神戸の美味しいものを食べたり観光スポットを回ったり、良い思い出になりました。神戸牛バーガーが目の前で売り切れて食べられなかったのが心残りです!!

名南病院　看護師　仲　夏寧歌

今回全国JBに参加させていただきました。阪神・淡路大震災から30年という節目の中、現地に残る震災の爪痕を実際に見ることで過去の震災を振り返る機会となりました。震災経験者のお話を聞き、防災センターで震災のビデオや展示物を見させていただきました。事例から今できることを考え、未来に繋いでいくべきだと学びました。

受験生ガンバレ！模擬面接会を3会場で開催

愛知民医連医学生委員会主催による模擬面接会が、11月1日に名南病院、8日に千秋病院、29日に北病院を会場に行われました。合格したら将来、愛知民医連の事業所に所属する医師になってほしい、との気持ちを込め毎年実施しています。

集団面接の練習の様子

長所を発見できるよう

今年は高校3年生や予備校生の延べ15名の参加がありました。模擬面接では受験生本人が記入したプロフィール用紙に基づいて面接官役の職員が面接を行いました。面接会では、身だしなみチェックや個人面接、グループ討論を行い、個人面接では受験生が今まで気が付いていなかった自分自身の長所について発見してもらえるように配慮し、面接を行いました。初めて面接を受ける受験生も多く、緊張した様子でした。

現役医学生からのアドバイス

また今回の模擬面接では3会場とも現役医学生の参加があり、実際の入試での面接試験を経験した医学生ならではの貴重なアドバイスが高校生に送られました。

いよいよ受験シーズンに突入します。体調に気を付け、持てる力をしっかりと発揮し合格してくれたらと祈っています。

最後に参加してくださった職員の皆様、医学生の皆様ご協力ありがとうございました。

わたしのお気に入り（20）

塗り絵…集中すると夜中になってしまうことも

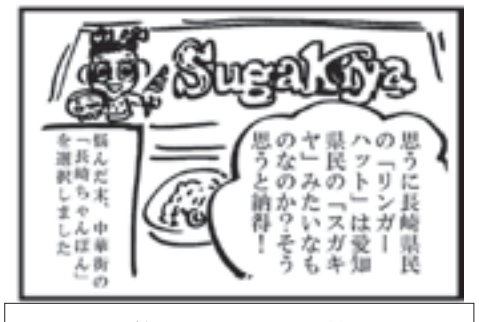
私のお気に入りは塗り絵です。数年前に娘が誕生日にプレゼントにと買ってくれたのがきっかけでした。24色の色鉛筆で細かい模様のものを1日2～3時間で何日もかけて仕上げるものもあれば、お手本と同じ色で塗っていく塗り絵もあって自分でも上手に塗ることができているので自己満足しています。

私はもともと手作業が好きでパッチワークや刺し子などマイブームがあって、集中すると夜中になってしまうこともあります。認知症予防になると良いのですが、肩こりになりながらも楽しく続けています。

写真は、下の２点が山田さんの作品。
上２点は書籍です。

老健ちあき・けやき棟　看護師　山田　晋子

モリさん日記「長崎②」



作・森　賢洋
（千秋病院　放射線技術）

家族の認知症への対応、介護サービスの相談など、切実な相談が次々

「介護・認知症なんでも無料電話相談」（愛知社保協）

介護保険制度開始から25年が経過しました。いま介護保険をめぐっては、利用料や施設の居住費・食費の負担が重く、必要な介護サービスを受けられない人が増えています。また、家族の介護を理由とした介護離職は年間10万人と高止まりです。事業所においても低く据え置かれた介護報酬のもと、深刻な経営難に直面し、介護従事者の人手不足もあいまって、２０２４年の倒産・休廃業件数は７８４件と過去最多となりました。介護をめぐる困難はますます広がっています。

こうした情勢のもと、11月10日、介護の悩みを抱える方々を対象にした「介護・認知症なんでも無料電話相談」が全国で開催され、愛知でも労働会館で行われました。

愛知民医連からは、各法人の協力のもと、ＭＳＷ、ケースワーカーが相談員として参加し、電話の受話器をとりました。

東海テレビの取材・報道もあり、当日は17件の相談がありました。

【相談事例】・一部

＊認知症の夫が大腿骨骨折の入院から近く帰ってくるが、90歳の同居母も弱っており、夫の介護できない。

＊夫婦２人暮らし。膝を骨折したが夫90歳を一人残せないので入院せず。家事大変でご飯食べられない。

＊認知症で家に帰れず警察の世話に。施設に入れたいが費用が高すぎる。

＊夫はアルツハイマー型認知症の診断を受けたが、プライド高く認知症を認めてくれない。

＊リハビリで入所したが、週に数回しかリハビリがなく弱ってきているので心配だ。

＊母が有事のときに見守りできるサービスを教えてほしい。

相談室　連載㊻

患者様の人生の大きな決断に関わり、エンパワメントできました

「亀川さん、やっと協議離婚が成立しました。背中を押してくれて本当に感謝しています」とＡさんより電話が入りました。Ａさん60代前半女性です。

うつ病を発症しており、1年半前に医療費についての相談から支援が始まっていた方です。

医療費の支払い・食費で困難

生活困窮の内容は、医療費（薬代、入院費）の支払いが困難、食費も困っているということでした。そこで提案・検討したのは、①食料支援の案内、②手帳の等級変更検討、③夫の傷病手当金の支給、④成人している子ども（２人）の独立、⑤夫婦２人世帯で生活保護申請、という４点を提案しました。

①③④は現実的に可能となり、⑤は子どもも含めて区役所に相談に行き、一旦は医療扶助を受けるところまで制度を使うことができました。しかし夫が傷病手当金を受けると保護廃止となり、本人の医療費負担が再び発生することとなりました。

夫からの経済的虐待、暴言の事実がわかり

何度か面談するうちに、夫からの経済的虐待や暴言を受けている事実が分かり、「本人は離婚したい」と訴えるようになりました。今までは夫の言うなりとなっていた自分自身に気づき、何とか別居して離婚したいとの気持ちが強くなっていきました。

そこで女性相談や障害者総合支援法によるグループホーム入居を提案しました。離婚という人生の中でも大きな選択なので、関係機関とも相談をしていただき、グループホームへの入居、協議離婚と進めていきました。

現在は夫から居場所を探されないように、他院に受診していただいています。

人生の大きな決断に携わることとなり、相談員としては重圧を感じることもありましたが、エンパワメントできたことでほっとしました。

今後の人生を楽しんでいただけたらと思っています。

協立総合病院
医療福祉サポートセンター　主任
亀川　喜代美

読者のひろば

感染予防努めましょう
千秋病院デイケア
介護福祉士　明石　雅之

伊吹山が初冠雪をしました。もうすぐ冬なんですね。インフルエンザが猛威を振るっていますが、感染しないよう予防に努めましょうね。

忙しくしています
千秋病院
医師　今枝　佑輔

医局長になってから、日々忙しくしてます。

キレイでした
南生協病院
理学療法士　渡邉　直樹

今年は寒暖差が大きく紅葉がキレイでした。家族で紅葉狩りにも行けて、秋らしさを感じられてよかったです。

まずは大掃除して
北病院　管理栄養士
柴田　佳代子

あっという間に12月、信じられないくらい時の流れが早いです。まずは大掃除して、家の中のいらないものをなくしたいです。

おばあちゃん育休
千秋病院介護保険ＳＣ
ケアマネ　福本　美千代

もうすぐ初孫が生まれます。里帰り出産をする娘のために、おばあちゃん育休的なお休みに入ります。今から楽しみです。

鍋が美味しい
老健あつたの森
事務　曽山　真菜

急な寒さがやってきて鍋がとっても美味しいです。

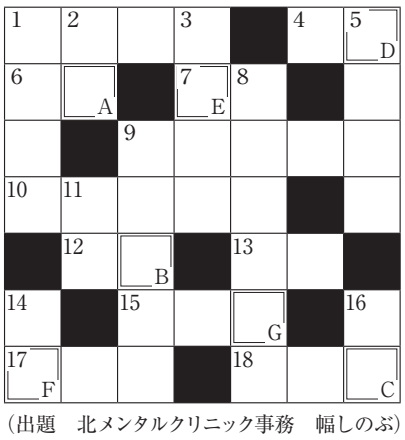
新しい趣味
老健かたらいの里
理学療法士　加藤　希望

最近編み物を始めました。ＹｏｕＴｕｂｅで作りたいものを探しては、好きな色の毛糸を使って色々な作品を作っています。家で出来る趣味なので今年の冬はぬくぬくしながら編み物をしようと思います♬

クロスワードパズル

クロスを解いてＡ～Ｇに入る文字を順にならべてできた言葉をこたえてね

答え　A　B　C　D　E　F　G



（出題　北メンタルクリニック事務　幅しのぶ）

【たてのカギ】

1 大晦日に何食べる？○○○そば
2 恋○○、○○よし、○○見世
3 足が速いこと
5 発明やアイデアを保護するための権利
8 機械も人も年に1回はしないとね
9 月火水木金土日　これで一○○○○○
11 生前の行いがこの世界を決める？
14 陸上最大の動物
16 ○○カー、○○サー、○○サンブル

【よこのカギ】

1 サンタの相棒
4 平和のシンボル？
6 奈良の天然記念物
7 ○○者、○○巻き、○○めがね
9 飛行機は全席コレ
10 子供から大人に変わる頃
12 コレに入ってはコレに従う
13 失敗が思わぬ良い結果に……○○の功名
15 富士山、御嶽山、阿蘇山、桜島……みんなコレ
17 アトムの妹
18 悪魔

〈クロスワード当選者〉

11月号、正解は「温泉旅行（おんせんりょこう）」。応募総数34通で正解は33人でした。次の方々が当選されました。

・中島　あゆ子さん（協立総合病院）
・公文　眞由子さん（千秋病院）
・伊藤　昌行さん（介護付有料老人ホーム虹の郷）

〈応募要項〉

あて先は、〒４５６―００００６　名古屋市熱田区沢下町９―３　愛知民医連宛。①こたえ、②事業所名、③職種、④氏名、⑤近況や紙面の感想、を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・電子メールでご応募ください。ＱＲコードも可。ペンネームや事業所名・職種不記載は抽選の対象外です。パート・臨時職員もご応募いただけます。

正解者の中から抽選で３人の方に図書カード進呈。

近況や感想が「読者のひろば」に掲載された方も当選者の半額分の図書カードを進呈します。12月号クロスワードパズルの応募締め切りは1月6日です。

https://goo.gl/k5hZMy

ＱＲコードをスマホなどで読むと応募フォームから投稿できます。

理事会報告

☆２０２５年６月最高裁判所は２０１３年から２０１５年の生活保護引き下げは違法との判決を下しました。厚労省は専門委員会を設置し対応について結果を公表しました。新たな保護基準で減額改定し、原告とそれ以外の被害者には異なる基準を設けるとしました。最高裁判決の軽視であり判決を真摯に受け止めた対応とは到底言えません。10年にも及ぶ違法を続けておきながら真摯な謝罪もなく、被害の完全回復に向けて1日も早い全面解決を求めたいです。

☆「地域崩壊をくい止めるための緊急行動提起」の取り組みでは、全日本民医連が開催した病院長会議で国会要請行動が行われました。愛知選出の立憲民主党、共産党の議員６名が紹介議員になってくれました。また、愛知県下の病院からも署名が５０筆、１５０筆と連日届いています。北医療生協の街頭での宣伝行動では快く署名をしてくれる人が多く、広がっています。

☆11月10日は「介護・認知症なんでも電話相談」があり、民医連からはケアマネ・ソーシャルワーカー４人が電話相談に応じました。認知症の家族を抱えての相談が多数ありました。

☆全日本民医連はＰＦＡＳ疫学研究に取り組む議論をしました。全国規模で血液検査を行いＰＦＡＳ暴露地域の特定と健康影響の関連を調査していきます。

【11月28日第５回理事会　県連事務局長　武田　修三】